

岩田壮平「雪月花時最憶君—花泥棒」2014年 200.0×1000.0㍎(個人蔵)

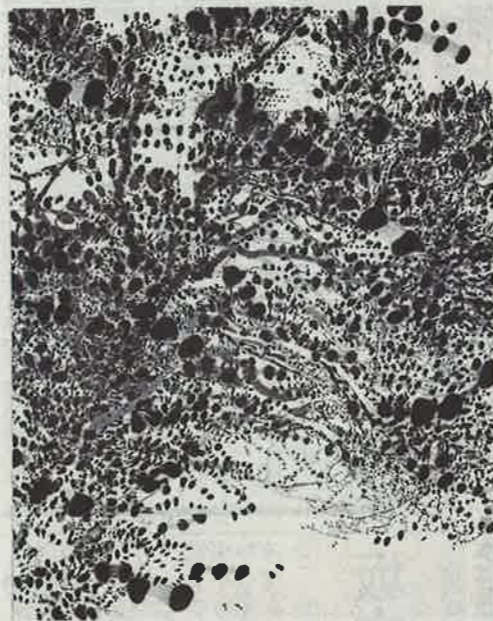


春の特別展「植物の力—拡大する日本画」

あすから東山魁夷せとうち美術館



岩田壮平「六々魚」
2018年 168.0×372.0
㍎(個人蔵)



浅見貴子「松の木
muison—so」2010
年 260.0×205.0㍎
(大原美術館蔵)

浅見貴子「桜木影向
図」2015年 265.0
×570.0㍎(個人蔵)



多様化する現代の美

東山魁夷せとうち美術館(坂出市沙弥島)で春の特別展「植物の力—拡大する日本画」が13日(15年)から始まる。自然を生涯愛した魁夷。その名前を冠する公募展の大賞受賞者2人を特集し、多様な現代日本画の一端を紹介する。6月2日まで。

特別展は瀬戸内国際芸術祭2019に合わせて企画。「東山魁夷記念日経日本画大賞展」で大賞を受けた岩田さん(愛知県出身)の「雪月花時最憶君—花泥棒」(2014年)や浅見さん(埼玉県出身)の「桜木影向図」(15年)をはじめ計22点を展示する。岩田さんは高校2年生で日本画家を志すまでは華道で身を立てようと考えていたそう。大賞受賞作は自転車、車輪など一見現代的ながらも日本古来のモチーフを取り入れた大作。琳派が用いた「たらし込み」の技法で生命の美や流動性を表現しており、鮮やかな色彩が広がっている。泳ぎ回るコイの姿を画面いっぱいに描写した「六々魚」も見どころ。

浅見さんは和紙の裏から墨を重ね、墨跡の濃淡で幹や枝葉を立体的に表現する独自の技法が特徴。身近な樹木が題材で、大賞作は自宅の近所に植えられていた桜を基にして描いた。同館主催、四国新聞社など共催。観覧料は一般610円ほか。問い合わせは同館、電話0877(44)1333。

- スペシャル・アーティストトーク
20日午後1時から浅見貴子さん、5月11日午後1時から岩田壮平さんによる作品解説。
- 夕焼けコンサート「室内楽の夕べ」
5月25日午後6時からかがわジュニア・フィルハーモニック・オーケストラの団員が出演(入場無料、定員80人)。
- ミュージアムトーク
13日、5月4、18日、6月1日の午前11時から同館学芸員による作品解説。

関連イベント